『核医学安全基礎読本2 核医学安全のための科学知識と技術スキル』
正　誤　表

標記書籍（2019 年 10 月 1 日　第一版　第 1 刷）に誤りがございましたので，以下に訂正しお詫び申し上げます。42 ページの「表Ⅱ－6　感染症と消毒方法」の「消毒方法」に空欄を生じてしまいました。下記のとおり空欄にはそれぞれ（同上）が入ります。

表Ⅱ－6　感染症と消毒方法

感染症	消毒方法	備考
エボラ出血熱 マールブルグ病 クリミア・コンゴ出血熱 ラッサ熱 南米出血熱	・80℃、10 分の熱水 ・抗ウイルス作用の強い消毒薬 － 0.05 ～ 0.5 w/v%（500 ～ 5,000 ppm）次亜塩素酸ナトリウムで清拭*、または 30 分間浸漬 －アルコール（消毒用エタノール、70 v/v%イソプロパノール）で清拭、または 30 分間浸漬 － 2 ～ 3.5 w/w%グルタラールに 30 分間浸漬**	・厳重な消毒が必要である。 ・患者の血液・分泌物・排泄物、およびこれらが付着した可能性のある箇所を消毒する。
痘そう（天然痘）	（同上）	・厳重な消毒が必要である。 ・患者環境などの消毒を行う。
結核 重症急性呼吸器症候群（SARS）	（同上）	・患者環境などの消毒を行う。
急性灰白髄炎（ポリオ）	（同上）	・患者の便で汚染された可能性のある箇所を消毒する。
ペスト	・80℃、10 分の熱水 ・消毒薬 － 0.1 w/v%第四級アンモニウム塩または両性界面活性剤に 30 分間浸漬 － 0.2 w/v%第四級アンモニウム塩または両性界面活性剤で清拭 － 0.01 ～ 0.1 w/v%（100 ～ 1,000 ppm）次亜塩素酸ナトリウムに 30 ～ 60 分間浸漬 －アルコールで清拭	・肺ペストは飛沫感染であるが、患者に用いた器材や患者環境の消毒を行う。
ジフテリア	（同上）	・皮膚ジフテリアなどを除き飛沫感染であるが、患者に用いた器材や患者環境を消毒する。
コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌	（同上）	・患者の便で汚染された可能性のある箇所を消毒する。
腸チフス パラチフス	（同上）	・患者の便・尿・血液で汚染された可能性のある箇所を消毒する。
感染性胃腸炎 ノロウイルス	・85℃、1 分以上の熱水 ・消毒薬 － 0.02 ～ 0.1 w/v%（200 ～ 1,000 ppm）次亜塩素酸ナトリウムに 30 ～ 60 分間浸漬	・患者の便や吐物で汚染された箇所を消毒する。
インフルエンザ	・消毒薬 －アルコールで清拭	・患者環境などの消毒を行う。

*血液などの汚染に対しては 0.5%（5,000 ppm）、また明らかな血液汚染がない場合には 0.05%（500 ppm）を用いる。なお、血液などの汚染に対しては、ジクロルイソシアヌール酸ナトリウム顆粒も有効である。

**グルタラールに代わる方法として、0.55%フタラールへ 30 分間浸漬や、0.3%過酢酸へ 10 分間浸漬があげられる。

（2020年2月17日）